

NJ素流協 News

平成25年 8月31日

第104号

平成25年 8月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

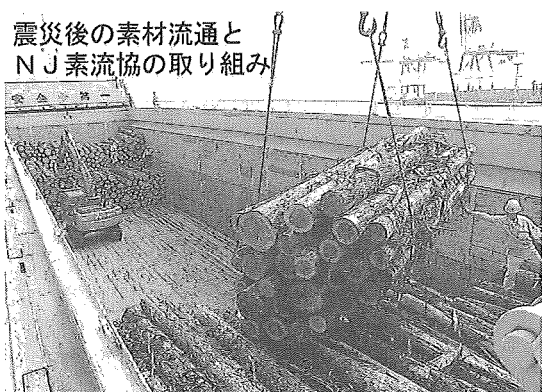
「2013年度東日本林業経済研究会」開催

「東日本大震災が岩手県の林業・木材産業に与えた影響と復興への取り組み」

8月1、2日、岩手県盛岡市と釜石市において、2013年度東日本林業経済研究会が開催された。今回のテーマは「東日本大震災が岩手県の林業・木材産業に与えた影響と復興への取り組み」で、北海道、東北各県、東京などから大学、研究機関等の関係者約50名が参加した。

第1日目は、岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターを会場として、シンポジウムと総会が行われた。シンポジウムにおける報告者の氏名と演題は報告順に次の通り(敬称略)。
▽岩手県農林水産部林業振興課 高橋 攻「木材産業の現状について」▽ノースジャパン素材流通協同組合 高橋 早弓「震災後の素材流通とNJ素流協の取り組み」▽岩手大学連合大学院 阿部 瀬良「金石地方森林組合における東日本大震災からの復興過程」▽岩手県

森林組合連合会 木とくらしの相談所 平野裕幸「震災後の森組系統の木材流通と復興住宅供給の取り組み」。
このうちNJ素流協 高橋常務理事の発表要旨をご紹介します。
▽震災後の素材流通とNJ素流協の取り組み」NJ素流協常務理事 高橋 早弓(報告要旨)



NJ素流協 報告資料より

岩手県は都府県の中で最も面積が広く、森林面積の33・5%を国有林が占

める。人工林における樹種割合はスギ、アカマツが各4割、カラマツが2割である。森林の半分が薪炭林を含んだ雑木林であることが地域の特徴といえる。東北地方の素材生産量は大きめに、岩手県120万m³、青森県、宮城県各60万m³、山形県30万m³、秋田県80万m³で、5県の合計は北海道の350万m³とほぼ同じである。NJ素流協はこの700万m³のエリアを事業対象としている。岩手県の素材生産量は、平成14年を底に、合板の国産材シフトを機に回復を始めたが、東日本大震災で一時的に大きく落ち込んだ。

NJ素流協は平成13年、素材生産事業体を主な組合員として活動を始めた。平成15年に協同組合として正式に設立した。全国的傾向と同様、合板工場の国産材の使用に合わせて、取扱量は順調に増大を続けてきた。東北地方には、秋田県、岩手県、宮城県に合板工場が複数ずつ立地し、国産材のB材原木の需要が旺盛であった。合板工場向け原木の採材講習会等を開催しながら組合員を増やし、同時に国有林素材の安定供給システム販売を活用しながら、大

量かつ安定的に供給することに取組んできた。平成22年度の取扱量は、26万7000m³であった。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災で発生した津波の被害を被ったことにより、岩手県、宮城県の太平洋側沿岸にあった合板工場が毎月使用していた、およそ7万m³の国産材が突如行き場を失った。

震災直後は、沿岸に近い組合員は、グラップル付トラックにより、流失した丸太の回収やがれき処理に機動力を発揮した。その後、仮設住宅用の丸太杭、養殖イカダの復興用丸太、シイタケ栽培用ほど木原木の生産供給などに協力した。一方では、広葉樹の生産などにシフトして、受け入れ先のない素材の生産を極力抑えて、被災工場の復旧を待った。

それでもなお生産されてくる材をさばくために、津波被害のなかった秋田県に立地する合板工場や、内陸の製材工場へ原木を振り向けたり、内航船を利用して西日本の合板工場へ出荷したりして対応した。また、復旧した合板工場からは、使用原木を、北海道産力

ラマツから一部岩手県産に切り替えてもらうという協力も得ている。

今後のN J素流協の取り組みとしては、さらなる広域流通への対応、バイオマス燃料供給、ウェブ入札の実施、低コスト再造林実証事業、情報の発信と提供等を、積極的に行っていくこととしている。



復興住宅供給事業パンフレットより

第2日目は現地見学で、東日本大震災で津波被害を受けた沿岸の釜石市を訪れた。研究会の開催案内に、「釜石地区は、震災前から林業生産活動では全国でも先導的な取り組みが行われてきたが、その中心的な役割を担っていた森林組合に甚大な被害が出た。震災

後はいち早く森組が中心となって、地域林業再建の努力を続けている」と紹介されている。一行は、ボランティアガイドから震災当時の状況説明を聞き、復興の現状を視察した。また釜石地方森林組合が取り組んでいる復興モデル住宅のプロジェクトを見学した。

復興モデル住宅は、住宅再建を望む地域住民のニーズと、岩手県沿岸地域で操業していた合板工場の被災で販路を失ったB材の新しい用途開発をつなげるプロジェクトで、東京の(株)結設計、遠野市の建設業者リンデンバウム遠野、釜石地方森林組合、岩手県森林組合連合会が連携して立ち上げた。樹木が大気中の二酸化炭素を吸収し、木材はその炭素を固定する働きをすることから、「森の貯金箱」と名づけられた。

この住宅の特徴は、B材を10・5cm角に製材、加工・連結して壁面パネルをつくるFSB工法を用いることである。1棟に使用する木材の量は約35m³と、従来の木造住宅と比べ約3倍で、パネル式の部材は解体し、移築や再利用が可能である。これにより、木材の持つ炭素固定機能をより長期間発揮さ

せることができる。また、5種類のパネルを組み合わせる工法により工期が大幅に短縮できるため、労賃を圧縮し、建設費用を安価に抑えることができる(岩手県森連業務部平野裕幸氏報告より)。

FSB工法: forest stock in building とは
FSB工法で家をつくることは、あなただけではなく、森と街を元気にします。
この工法は、木屑の多くを占める4m材や2m材、あるいは間伐材等、山から搬出される殆どの木材を歩留まり良く大量に活用することができ、林業を活性化させることができます。また、建築物の建て替えや増改築等で解体された部材を廃棄物とせず、別の建築部材として繰り返し使い続けることが可能なように考えられています。
パネル壁としたも
ル壁を連続させて
壁だけでなく、扉
でき、あらかじめ
壁の全てが循環
な工法です。
しかし、木材の多

釜石地方森林組合は震災時、津波で事務所を流失、組合長以下職員数名の尊い命を失うなど、自ら大きな被害を受けたが、人的・物的な損失を克服し、今後は「一般住民の生活再建へ貢献し」「地域に根差した主体としての責務」を果していくことが期待されている(岩手大学農学研究科修士 阿部瀬良氏報告より)。

復興住宅供給事業パンフレットより

平成25年度准フォレストラー研修

平成25年度准フォレストラー研修の東北ブロック研修Ⅰ(第1週)が7月8～12日、8月5～9日に盛岡市内において開催され、「木材の流通・販売」と題し、NJ素流協の高橋常務理事が講義を行った。研修Ⅱ(第2週)は9、10月に開催される。

平成23年度にスタートした准フォレストラー研修は、今後認定が始まるフォレストラーの候補となる人材を養成するため、国・都道府県・市町村職員等を対象として実施されているものである。

フォレストラーは、地域の森林の整備や林業・木材産業の活性化について長期的・広域的視点から構想を描き、これを実現していくための助言等を行う人材で、平成25年度から設けられた「地域森林総合監理」区分での林業普及指導職員資格試験合格者のうち、登録した者がフォレストラー(森林総合監理士)として認定される予定。

森林整備加速化事業(高性能機械等の導入)説明会を開催

NJ素流協は8月12日、盛岡市の農林会館において、森林整備加速化・林業再生基金事業(高性能林業機械の導入)に係る説明会を開催した。5事業体から6名が参加し、岩手県盛岡広域振興局菊池主任主査及びNJ素流協外館経営企画部長が事業計画書の作成方法、機械導入後の留意事項等について説明を行った。

森林における放射性物質の拡散防止技術検証・開発の状況

農林水産省は、平成24年4月から平成25年6月にかけて、福島県内の試験地において、間伐等の森林施業等を活用した放射性物質の拡散防止技術の検証等を行い、その結果について8月27日に公表した。

①落葉等除去や伐採等による空間線量率の低減効果

落葉等除去を行った場合の空間線量率の低減効果は20%程度となり、さらに伐採を行うことにより10%程度の追加的な線量低減効果が認められた。また林床や作業道を木材チップで被覆することにより、概ね10%程度の線量

低減効果が認められた。
②作業実施箇所からの放射性セシウムの移動

落葉等除去を実施した箇所では、土砂や放射性セシウムが移動が多くなった。このため、必要に応じて表土流出防止措置を講じるのが望ましい。

間伐を実施した箇所では、作業に伴う土砂や放射性セシウムの移動の影響は軽微なものであった。
③吸着剤による効果

森林内に設置した表土流出防止工に用いたゼオライト等の吸着剤における放射性セシウム濃度は、落葉層に比べて低かった。また、溪流に設置した濁水防止工に用いた吸着剤による放射性セシウム吸着量は小さく、いずれも放射性物質を除去・拡散抑制する観点からは、十分な効果は期待できないと考えられた。また、放射性セシウムの森林からの流出割合は小さいものだったが、その多くは土砂とともに流出することから、間伐を実施して下層植生を繁茂させる等、森林からの土砂の流出を抑制することが重要と考えられる。

④機械の活用による作業者の被ばく低

減や作業の効率化

キャビン付林業機械内の空間線量率は、屋外と比べて30%程度低減した。高性能林業機械を効果的に活用する作業システムの採用により、作業者一人あたりの被ばく線量を5分の1程度に低減させることができるものと推計された。

落葉等除去作業の一部にバキューム装置を用いた場合、手作業と比べ作業効率にほとんど違いはなかったが、作業後の地表面の放射性物質含有量が2分の1程度に低減しており、より高い線量低減効果が期待できるものと考えられた。

⑤丸太の現地保管

丸太の設置や、その後の被覆の有無による空間線量率の変化はみられなかった。

農林水産省では、引き続き、間伐等の作業後の下層植生の回復状況と放射性セシウム移動量のモニタリング等を行い、森林からの放射性物質の拡散防止技術の検証・開発を進めることとしている。

今月の名木・巨木 15

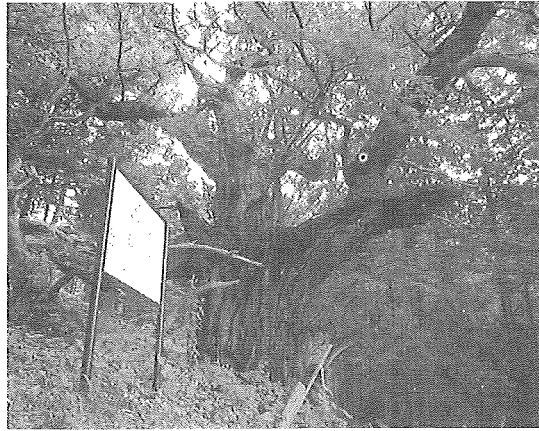
(軽米町)

軽米町指定天然記念物

市野々の大クリ

指定：1993年12月27日

所在：九戸郡軽米町大字小軽米天狗



九戸郡軽米町を東西に走る国道395

号線から、町の東端に近い小玉川に沿って7kmほど南下すると、天狗地区に至る。

道路の終点に「市野々の大クリ100m」の看板があり、鳥居をくぐって進んだ先に、クリの老木がどっしりと構えている。

市野々の大クリは、幹周り6・55m、

樹高約15m、推定樹齢650年とされ(現

地案内板より)、かつてはクリの巨木日本一とされていた。地元では「てんぐさま」と呼ばれ、神様の木とされている。

環境省の巨樹・巨木データベースに

よると、現在は山形県西川町の「大井沢の大栗」が幹周り8・5mで日本一とされている。市野々の大クリは第8位となっているものの、威厳のある姿は一見の価値がある。

野生のクリは北海道西南部から九州まで分布しているが、国内のクリの巨木ベスト10のうち、8本が東北地方のものである。

東北地方は、縄文時代からナラやクリを主体とした落葉広葉樹林帯であり、西日本の照葉樹林帯とは文化を異にする、との説もある。

青森県青森市の三内丸山遺跡は、今から約5500〜4000年前の縄文集落跡として知られているが、出土したクリのDNA分析の結果、DNAのパターンが均一なことから、当時からクリの栽培が行われていたとする説が提唱された。同遺跡の土に含まれる花粉分析において

は、クリの花粉の占める割合が極めて高いことから、集落の周辺はクリ林であったと推察されている。また同遺跡では、直径1mのクリ材を用いた大型掘立柱建物跡が発見されるなど、食用、建築用、

燃料用と、日々の生活に欠かせない資源だったと言える。縄文の時代から暮らしを支え続けるクリを守り、残してきた住民の想いが感じられる巨木である。

冗談欄 「高齢者新婚の真意は？」

定年後再就職して、第二の職場で働いている友人から聞いた話である。

彼の奥さんも共働きで働いていたが、

2ヶ月ほど前に誕生日を迎えて定年退職し、これからは好きなことをして第二の人生を楽しむんだと、毎日鼻歌混じりの生活をしているそうである。

子供は独立して家を去っているの、

老夫婦だが何十年かぶりの二人だけの甘い(?)生活で、奥さんは今までの罪滅ぼしとばかりに色々尽くしてくるそうだ。

黙っていてもお茶は出てくるし、毎

夜晩酌と肴料理も出てくる。そればかりか時々晩酌の相手までして2杯、3杯と注いでくれる。

「早く済ませて。片付かないから」と言われていた共働き時代とは百八

度違いの待遇である。

それは嬉しいことと喜んではいないが、

新しい悩みが出てきたそう。

朝出かけるときに、ベランダから「パパァ行つてらっしゃい」と手を振られるのに閉口しているとのことである。

隣り近所の手前、やめてくれと頼んでも意に介してくれそうになく、投げキッスまですることもあるそう。

友人の話をよく聞いてみると、奥

さんが出かける彼に手を振るのは、愛情からではなく、彼が出かけて奥さん一人となり、気ままに好き勝手なことができるのが嬉しくて手を振っているようである。彼が気付かないだけだよ。

それにしても、男なるもの悲しい人種である。ゆっくり休める場所も与えられず、体裁よく追い出されているのだから。

ことによると、晩酌の策も早死にさせるための密かな計略なのかも疑い

たくなるのである。

平成25年8月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約830㎡増加、カラマツが約1,400㎡減少、アカマツが約1,440㎡減少し、全体では約1,850㎡減少している。昨年同月と比較すると、スギが約3,330㎡増加、カラマツが約2,500㎡減少、アカマツが約450㎡増加し、全体では約1,590㎡増加している。今月のシステム販売取扱はなかった。
- 2 その他(合板用以外)の出荷量は前月より約430㎡減少、昨年同月より約110㎡減少している。
- 3 今年度の年間計画量258,000㎡に対する出荷量の割合(目標達成率)を42%とすると、今年度の全体出荷実績は、計画数量を5.6ポイント下回る結果となった。

(㎡)

樹種	長級(m)	当 月 出 荷 量			今 年 度 累 計			
		合板用	その他製材用等	計	合板用	樹種別割合(%)	その他製材用等	計
スギ	2.0	3,726			18,289			
	4.0	2,183			10,065			
	計	5,909	2,513	8,422	28,354	40.8	15,009	43,363
カラマツ	2.0	2,998			18,761			
	4.0	1,301			7,498			
	計	4,299	529	4,828	(739) 26,259	37.8	4,252	(739) 30,511
アカマツ	2.0	1,846			11,359			
	4.0	42			1,905			
	計	1,888	284	2,172	13,264	19.1	1,861	15,125
その他針葉樹		501	755	1,256	1,622	2.3	2,329	3,951
広葉樹			16	16	0	0.0	257	257
合計		12,597	4,097	16,694	(739) 69,500	100.0	23,707	(739) 93,206
目標達成率(%)								36.1
計画数量								258,000

() はシステム販売取扱量(内数)

落穂拾い

『遠野物語』の著者で民俗学者の柳田國男は全国をくまなく歩いたが、とりわけ東北地方に思い入れ強く、この地方の民俗について詳細な観察にもとづく著作も多い。ある時彼が陸中海岸を行脚した折のこと、ひなびた宿屋に泊っているときに体験し感じたことを「安眠御用心」と題して随想を記している。落穂拾い子が面白く感じたので、その中から落穂を拾う如く、抜書きしてみよう。

〈早起きの家の起きる時刻と宵っ張りの家の寝る時刻との間が、夏はまことに短い短夜でその間に犬が吠える。鶏なども鳴く。この町でも一番鶏が一時前だ。サンザン羽ばたきをし、かつ鳴いておいてから、彼らはまたぐつぐつと寝るらしいのである。ほんとうに憎らしいやつだ。肉や卵の目的がなかったら、何でこんな動物を飼うかを疑ってもよいのである。〉

へつまり前代のわれわれは永く寝ては大変だから、なるたけ四辺近所を物騒がしくしておいたのである。蚤でも蚊でも必要な機関だ。かつてある老人が若い者に言つて聞かせていた。もし蚊がいなかったら、お前たちはきつと外でばかり寝て、そうして身体を悪くするだろうと。この意味から言えば、蚊もまた天然無対価の枕時計であつて、ただ近世の鶏などと同じく、いささか時間の精確でないのを遺憾とするばかりである。これを厄介物視するがごとき輩は、果たして国民中の零コマの零々何パーセントあろうか。多数の健全分子、すなわち起きていて少し眠り、寝ていて少し起きる必要のある人々にとっては、夜暗にこの類の触觉聴覚の刺激のあるのは、あたくも白日の下に花あり胡蝶あるごとく、むしろ

る単調生活の芝生における、一種飛び石のようなものである。)

(しかるにわずかばかり西洋の習慣を学んだ者が、いや鍵をかけるの壁にしるのと、行われもせぬ旅館改良論を唱えるのは、本末を誤つた紋付シルクハットの滑稽で原首相のいわゆる日本の国情に合せざる外来思想の一つである。個人警戒の必要を根絶するか、代表警戒の全責任を負うてくれるか、ないしは人民の過半数を不眠覚に編入しえた後でなければ、そんな献策は空想というものである。日本現在の諸制度は、今なおよく寝られて困る人々のために、出来ているということを知らないか。)

現代の都会人、とりわけ青少年たちは、夜明け前の「一番鶏」のときを告げる「かん高い鳴き声を聞いたたり蚤に食われたときの痒さの苛立ちを体験したことがないだろう。柳田國男が生きたのは明治と昭和の初期であるから、当時の風物詩がそのままの形で残っていると考えたり、期待するのがおかしいかもしれない。それにしても、偉大な政治家にして、とりわけ今なお東北の地では絶大な人気を誇る大政治家原敬を「紋付シルクハット」にかこつけて揶揄しているのが面白い。とは言うものの、柳田國男も都会人であった。東京に住み、高級官僚でもあった。生い立ちは田舎育ちで、民俗学に対する深い関心と探究心をもっていたが、都会人の視線で高踏的・俯瞰的な立場を保持して柳田民俗学を確立した。民俗学が属する社会科学は、少し高みに立って広く見渡しながら比較検討を要する学問かもしれない。いずれにしても、わが国近代も明治、大正、昭和の時代を経て平成の世である。時はたゆみなく流れていく。